

東日本大震災における支援活動

—支援物資供給活動とボランティア派遣を中心に—

川崎忠行

日本臨床工学技士会

要旨

平成23年3月11日に発生した東日本大震災ならびに大津波被害に対して、日本透析医会災害情報ネットワークを活用し、日本臨床工学技士会および日本血液浄化技術学会による支援物資供給活動を3月28日より4月25日まで実施し、太平洋沿岸被災地へ大箱換算で1,400個口を届けることができた。

また、ボランティア活動は、支援物資供給センターでの作業に47名(延べ104名)であった。さらに、透析施設ボランティアは、臨床工学技士88名、看護師42名の登録があり、水戸市の病院へ2名、6日間、石巻市の病院へ4月9日より3名体制にて1週間交代にて派遣し、5月末まで実施予定である。

はじめに

平成23年3月11日14時46分ごろ、三陸沖を震源に国内観測史上最大のM9.0の地震が発生し、それに伴う大津波により、多数の方々が亡くなりましたこと、心よりご冥福をお祈り申し上げます。また、甚大なる被害に対してお見舞い申し上げますと共に、1日も早い復興も併せてお祈り申し上げます。

透析医療における災害対策は、平成7年1月17日に発生した阪神淡路大震災を経験し、社団法人日本透析医会によって災害情報ネットワークが構築され、被災状況、医療材料状況、マンパワー状況、患者受入可

能情報などが一元的に管理されている。そして、平成16年10月23日に発生した新潟県中越地震においてその災害情報ネットワークが機能し、大きな評価を得た。その7年後に今回の大震災が発生した。

その時、折しも東京にて日本透析医会、日本腎不全看護学会、日本臨床工学技士会、全国腎臓病協議会の合同会議の最中であり、急遽、会議は中止解散となった。東京では固定電話は通話可能であったが携帯電話はほとんどつながらない状況であり、また、交通機関もすべて停止し、筆者も帰宅難民と化し、帰宅したのは翌日の昼であった。

1 初動対応

初動対応としては、中越地震のさいは、2日後には現地入りした臨床工学技士からの直接情報が早期に得られた。しかし、今回の震災の甚大な被害状況(図1)はTV等で得られていたが、福島第一原子力発電所の被災による東京電力管内での計画停電が13日より実施となり、比較的被災の少なかった関東地域においても停電対応に追われ、緊急現地調査が行えなかった。現地入りしたのは18~19日(仙台市内、いわき市内)で、震災発生の日後と遅れがあった。またその後、20~21日(大船渡市、陸前高田市、大崎市)、30日~4月1日(石巻市、気仙沼市、陸前高田市、釜石市)、15日(岩沼市、亶理町、矢元町、相馬市、南相馬市)など、支援物資の供給先を調査した。

現地は筆舌に尽くし難いほどの悲惨な被災状況であ

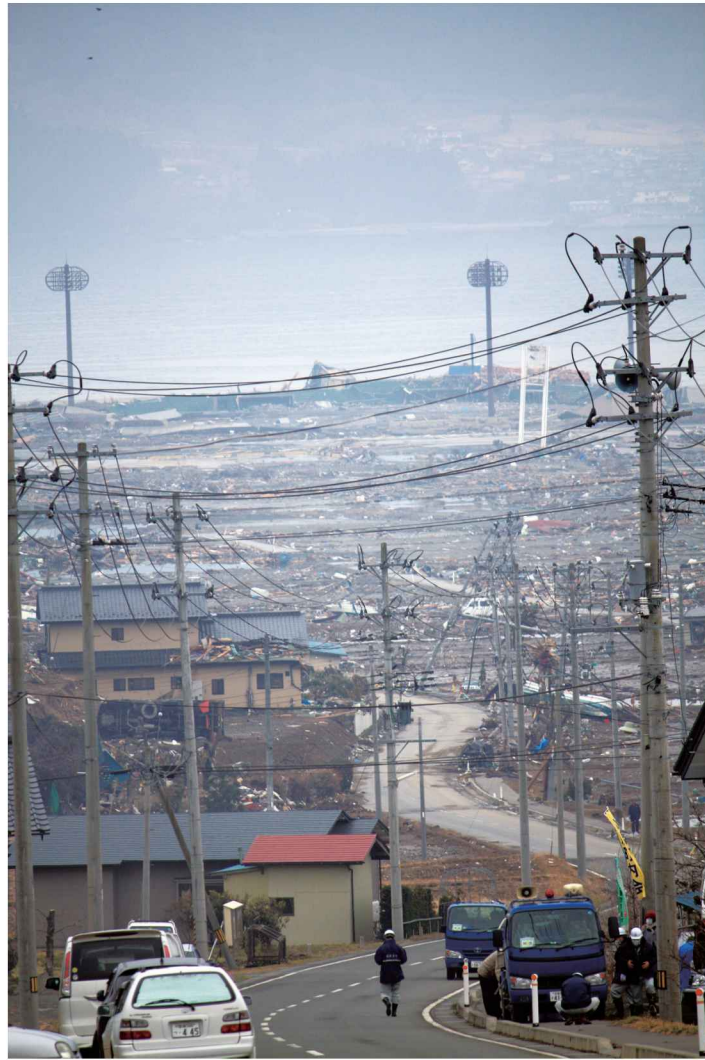


図1 被災地の様子（陸前高田3月21日）

ったが、すでに沿岸地域の透析患者は内陸や被災を免れた施設に移送して透析を実施していた。特に宮城県沿岸や仙台市内においても多数の透析施設が被災し透析不能となっていたが、いくつかの基幹施設での透析で対応したとのことであった。1週間で3,000透析を行ったということであったが、被災施設の患者の透析については当該施設のスタッフが行ったということであった。このため、受入施設の負担が軽減でき、このことは重要なことと感じた。また、電話が不通であったが、昭和53年に発生した宮城県沖地震を教訓に、無線による連絡網が機能したということであった。

さらに現地調査において、透析スタッフ自身も家を流されるなど被災者でもあり、また食料や生活用品も無く、特にガソリン不足によって買い物にも行けず、物資不足に拍車をかけた状態であった。

2 支援物資供給活動

このように過酷な環境で勤務している医療職への支援として、3月28日より日本透析医会の理解を得て、日本血液浄化技術学会および当会の連名にて、被災地医療機関に対する支援物資供給センターを立ち上げた。そして、全国の会員や都道府県臨床工学技士会へ食料や生活用品の提供を図2のごとく呼びかけた。なお、後に日本体外循環技術医学会も活動に参加した。

支援物資供給センターの概念図(図3)のごとく、ホームページにより物資の募集を呼びかけ、当会事務局会議室を用い、集まった物資(表1)を日に5~6名のボランティアによって品目別に仕分けした。それらの物資(大箱換算で合計1,401個口(現地調査時に直接持ち込み物資は除く))を岩手県、宮城県、福島県の14の沿岸被災地病院(表2)へチャータートラ

平成23年3月27日

急告

(社) 日本臨床工学技士会
会長 川崎忠行
日本血液浄化技術学会
理事長 山家敏彦

東北地方太平洋沖地震被災医療機関への救援物資募集について

東北地方太平洋沖地震により、被災された皆様には、謹んでお見舞い申し上げます。また被災地におきましては、救命・治療および復興支援に尽力していらっしゃる多くの方々に深く敬意と感謝の意を表すとともに、被災地の一日も早い復興と皆様のご無事を心よりお祈り申し上げます。

道路、電気、水道などインフラの復興で作業されている方々と同様に医療も重要な社会インフラです。

日本臨床工学技士会および日本血液浄化技術学会では、被災地域の過酷な状況において医療活動を行っているスタッフへの支援として「支援物資供給センター」を開設しました。

ご協力頂ける方は下記の要領にて支援物資をお送り頂きますようお願い申し上げます。

記

物資募集要領

1. 募集物資：1つの段ボール箱には1種類の物品を入れ表に内容物を記載して下さい。

- ・食料はカップ麺や缶詰などの保存可能な物
- ・衣類は下着等
- ・乾電池（懐中電灯用の単2、単3）
- ・生活用品（ゴミ袋、ウエットティッシュ、生理用品、コンタクトレンズケア用品、使い捨てカイロ、トイレットペーパー、ブルーシート、ビニールシート）

※募集物資情報は、下記URLで随時更新

日臨工 東北地方太平洋沖地震Web <http://jacet.net/info/>
日本血液浄化技術学会 災害掲示板 <http://www.jyouka.com/>

2. 送り先：受け取り時間は午前10時～午後5時
日本臨床工学技士会内「支援物資供給センター」
〒113-0033 東京都文京区本郷3-4-3 ヒルズ884・お茶の水ビル2F
電話 03-5805-2515 FAX 03-5805-2516
問い合わせ先E-mail アドレス

- ・(社) 日本臨床工学技士会 E-mail : info@jacet.net
- ・日本血液浄化技術学会 E-mail : info@jyouka.com

図2 救援物資募集の告知

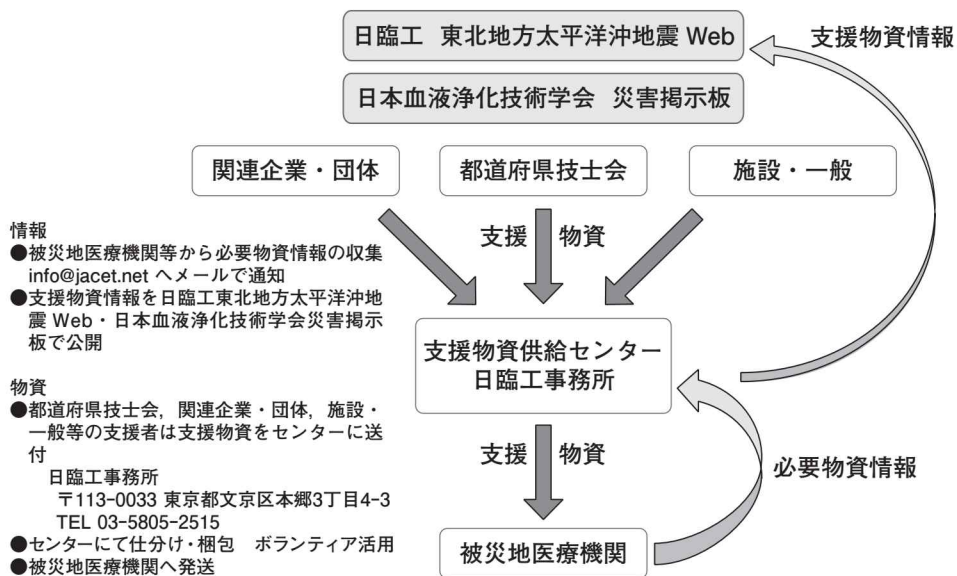


図3 支援物資供給センター概念図

表1 送付品と総送付数

	送付物	送付数
水	水 500 ml (本)	4,293
	水 2,000 ml (本)	830
	水 1,500 ml (本)	77
	水 10 L (箱)	20
	200 ml, 350 ml 他飲み物 (本)	78
	500 ml 他飲み物 (本)	242
	2,000 ml 他飲み物 (本)	40
食料品	カップ麺 (食)	2,594
	レトルト食品 (食)	1,918
	缶詰 (食)	1,123
	米 (5 kg)	51
	その他食料品 (箱)	70
子供用	小児用紙おむつ (箱)	122
	おしりふき (箱)	52
	粉ミルク (箱)	13
	アレルギーのある小児の食事 (箱)	1
	その他ベビー用品 (箱)	6
生活用品	トイレットペーパー (箱)	114
	ティッシュ (箱)	56
	ウェットティッシュ (箱)	18
	ペーパータオル (箱)	8
	生理用ナプキン (箱)	37
	紙おむつ大人用 (箱)	17
	下着 (箱)	14
	衣類 (箱)	4
	タオル (箱)	4
	シート類 (箱)	13
	ごみ袋, ポリ袋 (箱)	23
	乾電池 単 1, 2, 3 (本)	1,252
	ホッカイロ (箱)	24
	サランラップ (本)	2,712
	食器洗い用洗剤 (箱)	2
洗濯用洗剤 (箱)	47	
割り箸, 使い捨て容器等	紙コップ (個)	30
	割り箸 (膳)	152
	使い捨て容器	20
風呂用品	シャンプー・コンディショナー (箱)	15
	ハンドソープ (箱)	17
	手洗い石鹸 (個)	6
	ボディーソープ (箱)	3
	歯ブラシ, 歯磨き粉 (箱)	3
	その他風呂用品 (箱)	1
その他	トレビーノ (箱)	2
	文房具セット (箱)	6
	防災セット (箱)	15
	マスク等衛生セット (箱)	17
	ゴム手袋	2
	シーツ (箱)	1
	その他生活用品等	多数

表2 支援物資送付施設

地域名	病院名	箱数(個口)
福島県相馬市	相馬中央病院	108
岩手県大船渡市	岩手県立大船渡病院	96
宮城県仙台市	仙台市医療センター仙台オープン病院	213
宮城県仙台市	仙台社会保険病院	143
宮城県気仙沼市	気仙沼総合病院	36
宮城県石巻市	日本赤十字社石巻赤十字病院	77
宮城県仙台市	宏人会中央クリニック	96
福島県南相馬市	(医) 青空会 大町病院	40
福島県原町市	(医) 相雲会 小野田病院	36
岩手県宮古市	岩手県立宮古病院	140
岩手県釜石市	楽山会せいいてつ記念病院	150
岩手県釜石市	岩手県立釜石病院	140
宮城県多賀城市	多賀城腎泌尿器科クリニック	60
岩手県陸前高田市	勝久会 松原クリニック	66

上記には、被災状況調査の際、直接車にて運送したもの(多数)は含まず。

ックおよび宅配便にて配送した。この14施設から周辺の施設等に搬送してもらった物資もあり、特に仙台オープン病院、仙台社会保険病院には多大なる協力があつた。

物資を提供した個人、施設、団体等の数は143であり、この場を借りてお礼申し上げる。また、支援物資供給センターでの仕分け作業にボランティアとして協力した人は、3月28日～4月25日の期間に47名(延べ104名)にのぼつた。

3 ボランティア派遣活動

日本透析医会災害情報ネットワークにおける副本部担当者は、日本臨床工学技士会災害対策システム委員会委員長でもある。ボランティアについては図4の

ごとく、ボランティア希望者は自施設の了解の下に、技士会災害対策委員会へ登録し、ボランティアを必要とする施設は日本透析医会災害ネットワークへ要請する。そして、日本透析医会災害情報ネットワークは技士会災害対策委員会へ派遣要請し、現地と調整して派遣する流れである。4月21日現在で、ボランティア登録者数は、日本臨床工学技士会88名、日本腎不全看護学会42名(医師は除く)である。

第1陣として、山形県矢吹病院より、福島県からの患者が避難することによるボランティア派遣要請があつた。3月18日に派遣技士2名、運転手1名のグループと別の派遣技士1名が山形市に入ったが、急遽派遣中止となり、19日に仙台、福島を視察調査した。第2陣として水戸中央病院より、福島県からの透析患

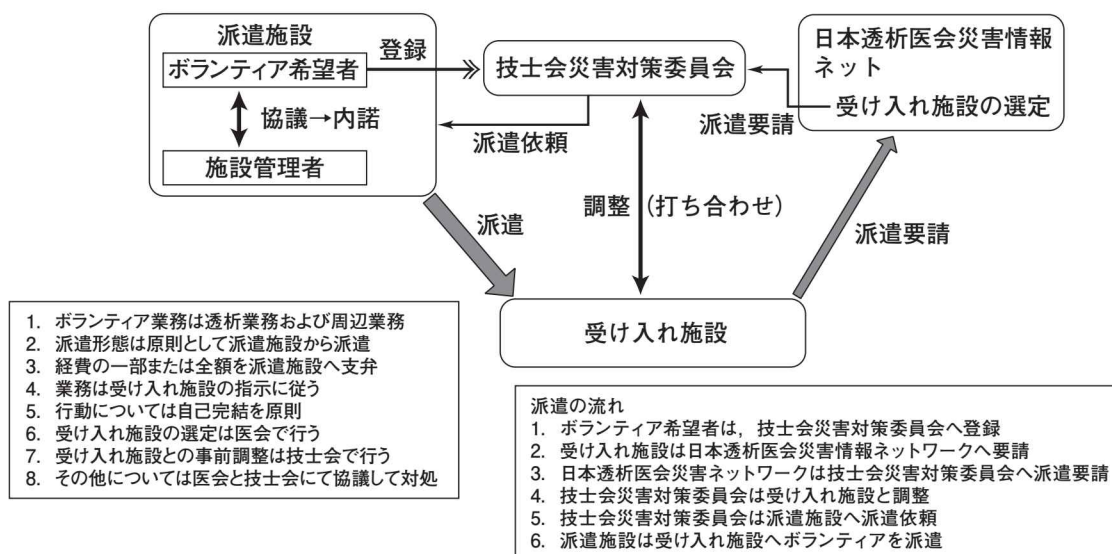


図4 日本臨床工学技士会東日本大震災ボランティア概念図

表3 ボランティア活動経過表 (4月21日現在)

★ 矢吹病院へ派遣及び現地調査〈ボランティア第1陣〉	
3月18日(金)～3月19日(土) 山形市, 仙台市, いわき市	臨床工学技士3名
3月18日(木)～3月19日(土) 山形市, 福島市	臨床工学技士1名
★ 岩手県沿岸地域現地調査及び大崎市へ物資配達	
3月20日(日)～3月21日(月) 大船渡市, 陸前高田市, 大崎市	
★ 水戸中央病院へ派遣〈ボランティア第2陣〉	
3月25日(金)～3月30日(水)	看護師2名
★ 石巻市, 気仙沼市, 石巻市現地調査及び仙台市へ物資配達	
3月31日(木)～4月1日(金)	臨床工学技士2名
★ 石巻赤十字病院へ派遣〈ボランティア第3陣〉	
4月4日(月)～4月9日(土)	看護師3名
★ 石巻市～南相馬市現地調査	
4月4日(月)～4月6日(水)	臨床工学技士1名, 看護師1名
4月6日(水)～4月8日(金)	臨床工学技士2名
★ 石巻赤十字病院へ派遣〈ボランティア第4陣〉	
4月8日(金)～4月16日(土)	看護師2名, 臨床工学技士1名
★ 石巻赤十字病院へ派遣〈ボランティア第5陣〉	
4月15日(金)～4月22日(金)	看護師2名
4月15日(金)～4月23日(土)	臨床工学技士1名
★ 岩手県各地の現地調査	
4月15日(金)～4月17日(日)	臨床工学技士2名
★ 以後の予定	
石巻赤十字病院への派遣〈ボランティア第6～9陣〉	
4月22日(金)～4月30日(土)	臨床工学技士3名
4月29日(金)～5月7日(土)	臨床工学技士2名, 看護師1名
5月6日(金)～5月14日(土)	臨床工学技士1名, 看護師2名
5月13日(金)～5月21日(土)	臨床工学技士1名, 看護師2名
5月20日(金)～5月28日(土)	臨床工学技士2名, 看護師1名

者受入れにともなう要請があり, 3月25日～30日まで看護師2名を派遣した。第3陣として, 石巻赤十字病院へ4月4日～9日, 看護師3名を派遣した。なお, 技士はすでに秋田赤十字病院等から3名派遣されていた。

以後, 石巻赤十字病院へ継続して臨床工学技士や看護師を派遣しており, 5月末まで実施予定である(表3)。

おわりに

本稿では, 平成23年3月11日, 三陸沖を震源とした東日本大震災への対応としての, 支援物資供給活動

および看護師, 臨床工学技士のボランティア派遣活動に言及した。今回の震災では, 津波により岩手県, 宮城県, 福島県, 茨城県, 千葉県などきわめて広範囲が被災したことや, 福島第一原子力発電所事故も発生したことで, 過去に経験したことの無い事態となっている。しかしながら, 透析医療は患者の命, まさしくライフラインであり, 一時も早い復旧が望まれる。

最後に, 支援物資をお送り頂きました方々, ボランティアに登録や派遣された方々, 昼夜を問わず対応して頂きました災害情報ネットワーク担当者など多数の方々のご努力に敬意を表します。